

第20回 勝口前畑遺跡 (福島市八島田)

勝口前畑遺跡は、野田町の八島田街道北側にあるスーパーいちいから西道路を挟んで西部三育幼稚園まで、荒川北岸の低地に立地する広範囲にわたる遺跡です。弥生時代から江戸時代にかけての各時期にわたる遺構が発見され、規模の大きい複合遺跡であることが明らかになっています。

平成7年の調査の結果、弥生時代(2,300年前~1,700年前)の勾玉製作に関わる数々の遺物が出土し、この場所で勾玉を製作していたことがわかりました。

勾玉は原石を立方体に粗割りし(3)、さらに小さな立方体に細分し(4)、片側を細かく割って半円形に整え(5)、砥石を使って研磨を加え(6)、反対側に溝を彫って(7)勾玉の形を整え作ります。石針(1)が見つかることから最後に紐を通す穴をあけていたものと思われそうですが、完成品はすべて持ち出されており、遺跡からは見つかりませんでした。住居跡などは見つからないため、集落の様相は明らかにはなりませんでした。弥生(1)石針時代の勾玉製作跡は全国的にも非常に珍しく、貴重な発見です。



↑(1) 石針 安山岩を割って細長く成型し研磨します。左端が成型途中のもの、右の2本は使用済みのものです



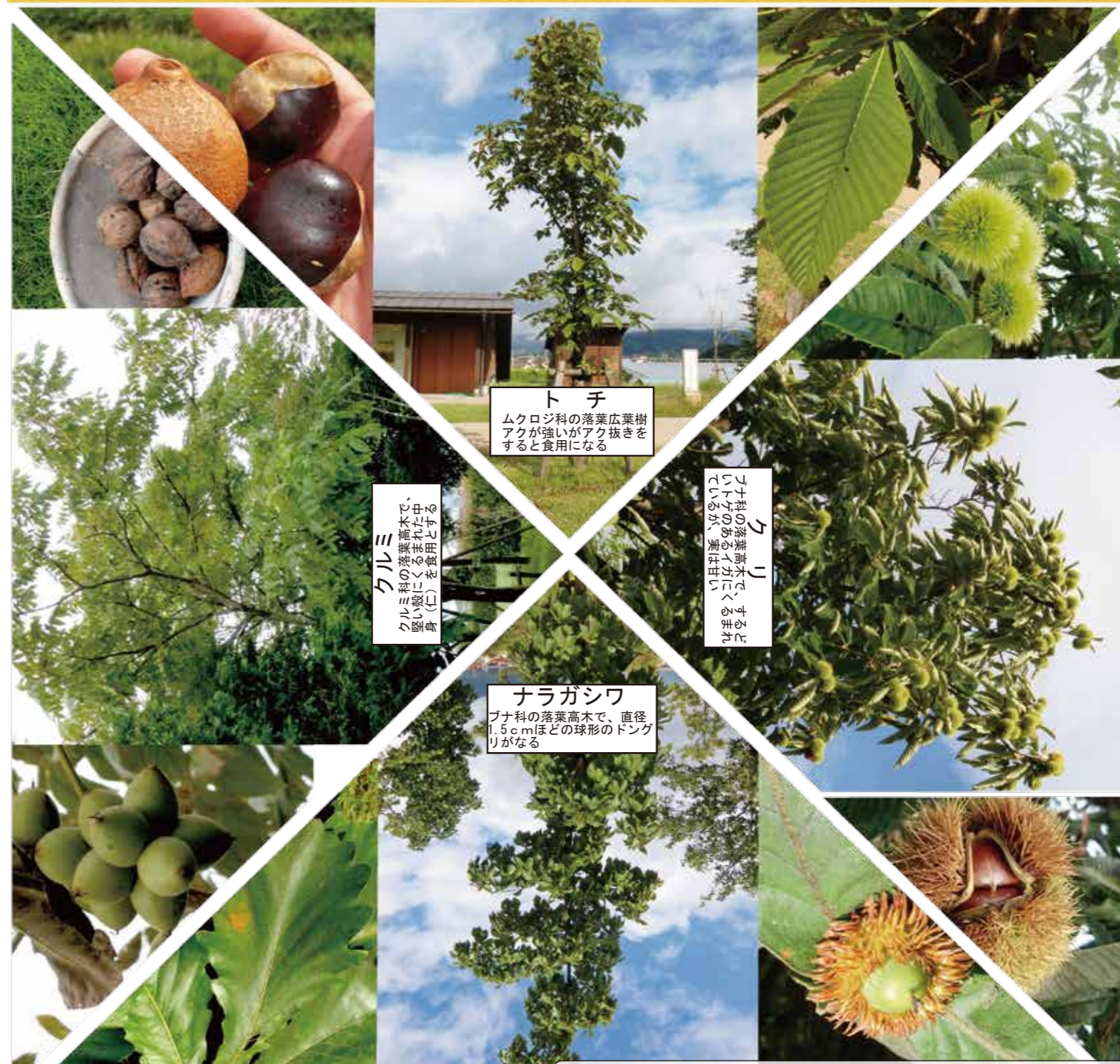
↑(2) 原石 勾玉の材料には緑色の流紋岩が用いられています。
 ↓(3) 粗割り 材料を割って、大きな立方体を作ります。
 ↑(4) 小割り 原石から割り取った立方体をさらに小割りにします。
 ↓(5) 整形 細かく割って半円形を作ります。
 ↑(6) 研磨 全体を研磨し、丸みを出します。
 ↓(7) 仕上げ 平らな面に溝を彫り、勾玉の形を整えます。

じょーもぴあ宮畑だより

2017 秋号

vol. 23

特集 : 文化の秋 学びの秋..... P 2
 連載 : 展示案内 ⑦..... P 3
 : コラム 縄文の小径 第3回..... P 3
 : 福島市の遺跡 第20回..... P 4



トチ ムクロジ科の落葉広葉樹 アクが強いがアク抜きをすると食用になる

クルミ クルミ科の落葉高木で、堅い殻にくるまれている(仁)を食用とする

クナリ ナナ科の落葉高木で、くまれている(仁)が食用になる

ナラガシワ ブナ科の落葉高木で、直径1.5cmほどの球形のドングリがなる

じょーもぴあ宮畑の公園には縄文時代に利用されていたと考えられる樹木が植えられています。堅果類は今年の秋も沢山の実を付けました。(撮影は9月)

じょーもぴあ・遺跡の案内人新規会員募集

じょーもぴあ・遺跡の案内人はじょーもぴあ宮畑で案内ガイドを中心に活動しているボランティア団体です。興味のある方はぜひ、活動を見学においでください。みんなで楽しく活動してみませんか?



応募方法 平成29年11月30日(木)まで(当日必着)に、じょーもぴあ宮畑、文化課、各支所、学習センターに配布の申込書に必要事項を記入の上、文化課かじょーもぴあ宮畑へ持参、FAX、郵送により提出。
会費 1,000円
 詳しくは市政だより11月号あるいは支所・学習センターに設置のチラシをご覧ください。
問い合わせ先 じょーもぴあ宮畑 (電話 024-573-0015)

編集後記

秋を代表する言葉に「秋の夜長」「読書の秋」「食欲の秋」等がありますが、書籍をひもとく事で心に安らぎを与えてくれるものです。この所、世の中で多くの情報が飛び交う中で、今までの考え方を変える新しい事実が解明されてきていて、ややもすると固定的であった歴史の世界でも同様に科学の進歩とともに見直されてきている現状です。一方、私たちの住んでいる地域の周りを見渡せば、知られていない小規模な遺跡が点在していることが多く、今の時期、これらを訪ね歩くのも新しい発見があるかもしれません。(博)

トークショー土偶を発掘する 講師：譽田亜紀子氏（文筆家）

日時：平成29年8月27日（日）
場所：じょーもびあ宮畑



レプリカを前にトークをする譽田氏

土偶女子の譽田氏をお迎えして、縄文時代の土偶について、楽しく深いお話をお伺いしました。土偶はどう使われたのか？誰が作ったのか？そんな、考古学ではまだ解明されない数々の疑問を読み解くには、「感性」の力も必要であるとのこと。

博物館にあるような立派な土偶だけでなく、「素朴な」土偶にも広く目を向けなければ、土偶と縄文時代の人たちとの関係は見てこないこと、様々な人たちが様々な作り方・使い方をしていることなどの指摘を交え、目から鱗の落ちる90分間でした。

オープンカレッジ 邪馬台国のころの東北地方 講師：青山博樹氏（東北学院大学非常勤講師）

日時：平成29年9月3日（日）
場所：じょーもびあ宮畑

邪馬台国と大和王権の成立の関係や纏向遺跡の調査成果などをもとに、弥生時代から古墳時代への社会変化についてお話いただきました。

弥生時代から古墳時代にかけての歴史の流れの中で、列島規模ではほぼ一斉に古墳が出現している一方で、弥生文化から古墳文化への移行は一様でなかったこと、河沼郡湯川村に所在する桜町遺跡は、北陸、北関東、福島県域太平洋側と会津盆地との交流の要所として、弥生時代後期後半においては極めて重要な遺跡であることなど、実証的な研究に裏付けられた非常に興味深いお話を聞くことが出来ました。



オープンカレッジ 縄文土器に文様を描く

講師：藤沼邦彦氏（元弘前大学教授）

日時：平成29年10月8日（日）
場所：市民会館第2ホール



縄文土器の文様には、全時期を通してみられる抽象的なもの、中期～後期に見られる人面や人体、動物などの具象的なものがあり、それらが組み合わせによって描かれることなどをお話いただきました。

とくに縄文時代晩期の土器については、一見複雑に見える文様でも、区画を作る文様、隙間に充填する文様、単位を作る文様に分解するとシンプルな文様の組み合わせと反復であり、たとえば「絵描き歌」のようにその要点をまとめれば、誰でも同じ文様を作ることが出来たのではないかとのお話はとても新鮮でした。

じょーもびあ・遺跡の案内人 秋のイチオシ！

土偶のリアル

「土偶女子」として活躍中の著者が、土偶にまつわる17の物語を紹介しながら、土偶に寄せた縄文人たちの願いに想いを馳せる。上岡遺跡のしやがむ土偶を始め、土偶の発見にかかわった人たちの興奮や地元での保存管理に携わる人々の熱意もリアルに伝えてくれる。

山川出版 1500円（税別）

縄文の思考

器放れた土器、常に火が焚かれていた竪穴住居の炉、土偶や顔面把手に見られる左右非対称な表現、六本柱や環状列石の特殊なカタチなど、縄文人の精神文化を想像するヒントが詰まった一冊。

ちくま新書 780円（税別）

じょーもびあ宮畑では、福島県考古学会の会長を務めた梅宮茂氏と目黒吉明氏のご遺族より蔵書をご寄贈いただき、閲覧用に開架しております。ゆっくらとご覧ください。

※館外貸出ならびにコピーサービスは実施しておりません

展示室「縄文人のおくりといのり」の入口には上岡遺跡出土のしやがむ土偶が展示してあります。この土偶はお産の姿勢を表しているともいわれ、ここでは安産を願いながら土偶を作る母親のイラストが添えられています。

そこから向かって左の壁際には、縄文土器が並んでいます。これらの土器は乳幼児のお墓に使われたものです。縄文時代には乳幼児が死ぬと縄文土器の中に納め、埋葬する風習がありました。



これは、幼くして死んだ子供の魂が、母親のお腹（子宮）に見立てた縄文土器を通して再生することを願ったのかもかもしれません。

子供のお墓には縄文時代の人々の「気持ち」が込められています。「心」は形がないため、縄文時代の人たちの心はなかなかうかがい知ることはできませんが、縄文時代の生と死に込められた祈りは、土偶やお墓など遺跡に残されたものから読み解くことが出来ます。



連載コラム 縄文の小径

三貫地貝塚 2016年5月末NHKの朝のニュースが、「日本人の祖先は縄文人だった」というセンセーショナルな縄文人核ゲノム研究を紹介した。常識的な日本人観を打破する、大事件の勃発である。常々縄文人と弥生人の交代説に疑問を感じていたが、やっぱりそうかと強い衝撃を受けた。長い間日本人の祖先は弥生人とされてきたが、弥生人が大量に日本列島に押し寄せた痕跡はないし、縄文人が弥生人と入れ替わったという根拠も薄弱であった。

国立遺伝学研究所の斎藤成也教授らのグループは、福島県の縄文時代の遺跡三貫地貝塚から出土した約3000年前の縄文人の歯から細胞の核のDNAを取り出して、核ゲノムを初めて解読し、現代の本土日本人とも遺伝情報を比較したところ、縄文人の情報が1割以上（12%）も伝わっていることがわかり、「本土日本人は、縄文人と大陸から稲作などを伝えた弥生系の人々が交流して形づくられた」という仮説を裏付けることになった。

三貫地貝塚は福島県新地町にある縄文時代後期～晩期の貝塚遺跡で、明治時代には駒ヶ嶺貝塚として専門誌により全国で紹介された。昭和27年、日本考古学協会によって発掘調査が実施され、100体以上の人骨が発掘された縄文時代を代表する貝塚のひとつである。発掘された人骨は現在東京大学に保管されている。昨秋、どうしても現地を再度この目で確認したくなり、当時発掘にも参加したという地元の東北学院大学名誉教授岩本由輝氏にご案内いただいた。浜海道の道筋や当時の発掘状況などを交えた懇切丁寧な説明に感激した。三貫地貝塚は駒ヶ嶺城跡の北に位置し、現在は道路脇の畑で、案内板がなければ貝塚跡ともわからない。全く普通の畑で、日本人のルーツを解明するきっかけとなった大変貴重な貝塚であることなど微塵も感じさせない。すぐ近くの一段高いところにある、古代を偲ばせる銀杏の大木が印象的だった。

日本人のDNAは？

私たちの細胞には、中心に核があって、周辺にミトコンドリアという小さな器官がある。ミトコンドリアはひとつの細胞に数百個もあるため、これまで分析に広く使われてきた。ただ、ミトコンドリアDNAの持つ情報は限られていて、文字数に例えると2万文字以下の情報しかない。これに対し核DNAは32億文字にも上り、膨大な情報を含んでいる。縄文人のDNAは、これまでは細胞の中にあるミトコンドリア由来するものに頼っていたが、今回は技術の進歩により、その数千倍から数万倍の情報量がある核のDNAの利用が可能になり、日本の古代人では初めて核DNAの一部が解読され、より詳細に遺伝情報が分析できた。さらに、そのDNAは縄文人が大陸から農耕や金属器を携えて来た渡来系弥生人と混ざりあっていることがわかったのである。

近代化と日本の歴史

どうしてこういうドラマチックな逆転が起こるのか。それはおそらく、縄文時代を原始社会とし、稲作文化の弥生時代を日本の歴史の起点として切り分けることが、明治以来の近代化を目指す時代の風潮の中で西欧との類似を追求することに影響したからでしょう。つまり日本の近代歴史学は、自己を西欧の歴史を意識してそれに似せなければならなかったことが、科学的根拠が不十分のまま日本人の起源を確定せねばならぬ動機となって成立したのである。

縄文人起源説は、今明治維新から150年目を迎えるようとして、科学の進歩と相俟って「近代化」が様々な観点から見直されてきている、その一つの姿でもある。（游行子）

細胞のモデル図
ミトコンドリア 細胞膜 核